

上天草市一般廃棄物処理基本計画改訂箇所一覧

資料3-1

	新p	項目	目次	枝番	改訂前	改訂後・改定内容
1	1	文章	表紙	表紙	平成24年3月	【改訂版】の追加、平成29年4月に変更
2	4	文章	第1章 計画の基本的事項	第3節	概ね5年後を目途に見直しを行い、個別の政策等については、継続的な改善を実施するため、年度ごとに点検及び評価を行います。	平成28年度に改定しました。
3	5	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(1)①	6年間で約7.0%減少しています。しかしながら、1人1日当たりの排出量では、逆に約3.3%増加しています。	11年間で約8.9%減少しています。しかしながら、1人1日当たりの排出量では、逆に約10.9%増加しています。
4	5	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(1)①	ごみ排水量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	ごみ排水量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
5	6	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(1)②	平成16年度から平成22年度に排出された家庭ごみを種類別にみると、可燃ごみが約5.5%、不燃ごみが約19.7%、資源物が約12.1%減少し、総量で約7.7%減少しています。	平成16年度から平成27年度に排出された家庭ごみを種類別にみると、可燃ごみが約9.4%、不燃ごみが約20.5%、資源物が約28.8%減少し、総量で約13%減少しています。
6	6	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(1)②	家庭ごみの種類別排出量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	家庭ごみの種類別排出量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
7	7	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(1)③	平成16年度から平成22年度に排出された事業ごみを種類別にみると、可燃ごみが約3.6%、資源物が約51.8%減少し、不燃ごみが約21.3%増加しており、総量では約5.6%減少しています。不燃ごみの増加は、資源物として排出されるべきものが、分別されずに不燃ごみとして排出されたことによるものと考えられます。	平成16年度から平成27年度に排出された事業ごみを種類別にみると、可燃ごみが約3.5%、不燃ごみが約34.2%増加し、資源物が60%減少しており、総量では約0.7%増加しています。
8	7	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(1)③	事業ごみの種類別排出量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	事業ごみの種類別排出量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
9	8	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(2)①	平成22年度に排出されたごみの内訳をみると、可燃物が7132.8トンで82.9%を占め、不燃物が7.0%、資源物が10.1%となっています。	平成27年度に排出されたごみの内訳をみると、可燃物が7,111トンで84.3%を占め、不燃物が7.3%、資源物が8.4%となっています。
10	8	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(2)①	ごみの内訳(表)平成22年度内訳	ごみの内訳(表)平成27年度内訳に変更
11	8	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(2)①	平成19年度から平成22年度に排出された可燃ごみの平均組成は、紙・布類が43.6%と最も多く、次いで、生ごみ21.6%、ビニール・ゴム・合成樹脂・皮革類20.8%となっています。 また、排出された可燃ごみの成分は、平成19年度から平成22年度の平均で水分が54.0%を占めています。	平成19年度から平成27年度に排出された可燃ごみの平均組成は、紙・布類が51.6%と最も多く、次いで、ビニール・ゴム・合成樹脂・皮革類20.6%、生ごみ17.5%となっています。 また、排出された可燃ごみの成分は、平成19年度から平成27年度の平均で水分が52.5%を占めています。
12	8	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(2)②	可燃ごみの組成分析結果と平均組成(表・グラフ)平成19～22年度、平成22年度をグラフ表示	可燃ごみの組成分析結果と平均組成(表・グラフ)平成23～27年度の追加、平成27年度をグラフ表示
13	8	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(2)②	可燃ごみの三成分(表)平成19～22年度	可燃ごみの三成分(表)平成23～27年度の追加
14	9	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 1(3)③	平成19年度から平成22年度の可燃ごみの平均組成は、紙・布類、生ごみ、ビニール・ゴム・合成樹脂・皮革類が全体の86%を占め、可燃ごみの成分では、水分が54.0%を占めています。	平成19年度から平成27年度の可燃ごみの平均組成は、紙・布類、生ごみ、ビニール・ゴム・合成樹脂・皮革類が全体の89.7%を占め、可燃ごみの成分では、水分が52.5%を占めています
15	10	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 2(1)	平成16年度から平成22年度に資源化された量は、約21.7%減少しており、リサイクル率も13.9%から11.8%に減少しています。	平成16年度から平成27年度にかけて資源化された量は、約32.4%減少しており、リサイクル率も13.9%から10.3%に低下しています。

	新p	項目	目次	枝番	改訂前	改訂後・改定内容
16	10	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 2(1)	資源化量とリサイクル率の推移(表・グラフ)平成16～22年度	資源化量とリサイクル率の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
17	10	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 2(2)	資源化量を品目別にみると、平成16年度から平成22年度にかけて、紙類、金属類、ガラス類が減少の傾向にあり、布類が増加しています。	資源化量を品目別にみると、平成16年度から平成27年度にかけて、紙類、金属類、ガラス類が減少の傾向にあり、布類が増加しています。
18	10	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 2(2)	品目別資源化量の推移(表)平成16～22年度	品目別資源化量の推移(表)平成23～27年度の追加
19	11	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 2(3)	③ 集団回収の推進と支援制度の検討 本市では、一部の子ども会や学校などにおいて集団回収が行われていますが、その実態については把握されていない状況です。今後は、リサイクル率の向上を目指し、実態の把握と市民等の自主的な実践活動の活性化を図るため、助成金などによる支援制度の検討に取り組んでいく必要があります。	③ 資源物排出機会の提供 現在、資源物の排出機会が毎月1回と限定されていることから、資源化率向上を図るために多様な排出機会を市民に提供し、市民が資源物を排出しやすい体制を構築していく必要があります。
20	12	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(1)①	平成22年度においては約8,300トンで、うち約8,026トンが松島地区清掃センターで直接焼却または中間処理されています。	平成27年度においては約8,235トンで、うち約8,053トンが松島地区清掃センターで直接焼却または中間処理されています。
21	12	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(1)①	ごみ処理量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	ごみ処理量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
22	13	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(1)②	平成16年度と比較して平成22年度においては、約4.7%減少しています。	平成16年度と比較して平成27年度においては、約3.5%減少しています。
23	13	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(1)②	焼却処理量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	焼却処理量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
24	13	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(1)③	埋立処分量の推移をみると、平成16年度以降横ばいの状況で推移しています。	埋立処分量の推移をみると、平成22年度以降若干減少傾向にあります。
25	13	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(1)③	埋立処分量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	埋立処分量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
26	14	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(2)①	天草広域連合への負担金の減額に伴って減少の傾向にあり、平成22年度においては486,188千円で、1人当たりの処理経費は15,191円となっています。	平成24年度までは天草広域連合への負担金の減額に伴って減少の傾向にあり、平成25年度から新ごみ処理施設建設に伴う経費が発生したため増加しています。 平成27年度においては460,858千円で、1人当たりの処理経費は15,780円となっています。
27	14	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(2)①	ごみ処理経費の推移(表)平成16～22年度	ごみ処理経費の推移(表)平成23～27年度の追加
28	14	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(2)②	② 平成22年度の収入総額と内訳 平成22年度のごみ処理に伴う収入総額は25,981,978円で、その主な内訳は、家庭ごみの収集運搬及び処分に伴う処理手数料(市指定ごみ袋等の販売代金)が21,021,064円、資源物の売却代金4,942,914円となっています。	② 平成27年度の収入総額と内訳 平成27年度のごみ処理に伴う収入総額は27,047千円で、その主な内訳は、家庭ごみの収集運搬及び処分に伴う処理手数料(市指定ごみ袋等の販売代金)が22,026千円、資源物売却代金4,668千円となっています。
29	14	グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(2)②	平成22年度の収入総額と内訳(グラフ)平成22年度内訳	平成27年度の収入総額と内訳(グラフ)平成27年度内訳に変更
30	15	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(3)①	本市では、家庭ごみについては、可燃ごみ、粗大ごみ、資源物(16品目)、不燃ごみ(3品目)の21品目に分けて収集、処理しています。可燃ごみ及び粗大ごみについてはステーション収集を行い、資源物及び不燃ごみについては拠点回収を行っています。	本市では、家庭ごみについては、可燃ごみ、粗大ごみ、資源物(19品目)、不燃物(2品目)の23品目に分けて収集、処理しています。 また、雨天時に収集できない資源物(雑誌等の紙類)の回収に対応するため、平成28年3月から大矢野庁舎に紙類の収集施設を設けています。

	新p	項目	目次	枝番	改訂前	改訂後・改定内容
31	15	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(3)①	家庭ごみの分別区分表平成22年度	家庭ごみの分別区分表を現在の区分に変更
32	16	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(3)③	松島地区清掃センターに搬入されたごみについては、プラスチック類を除き、清掃センター施設内で処理され、資源化や埋立処分されています。	松島地区清掃センターに搬入された可燃ごみ・粗大ごみ・不燃物・資源物は、ペットボトル・発泡スチロール・容器包装プラスチックを除き、清掃センター施設内で処理され、資源化や埋立処分されています。
33	16	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(3)③	ごみ処理と資源物の処理の流れ(表)平成23年4月1日現在	ごみ処理と資源物の処理の流れ(表)を平成28年4月1日現在の表に変更
34	17	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(4)②		※現在、供用完了を追加
35	18	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第1節 3(5)①	今後は、平成32年度に向けて、新規ごみ処理センターの・・	今後は、平成38年度に向けて新規ごみ処理センターの・・
36	22	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(1)	生活排水の処理体系(表)平成23年4月1日	生活排水の処理体系(表)を平成28年4月1日現在の表に変更
37	23	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(2)	本市における平成22年度末の処理形態別人口は、以下のとおりです。し尿と合わせて生活雑排水を処理している生活排水処理率※1は、38.0%で、県下でも下位の状況であり、より一層の生活排水処理率の向上が望まれます。	本市における平成27年度末の処理形態別人口は、以下のとおりです。し尿と合わせて生活雑排水を処理している生活排水処理率※1は、48.3%で、県下でも下位の状況であり、より一層の生活排水処理率の向上が望まれます。
38	23	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(2)	平成22年度生活排水処理形態別人口及び生活排水処理率	平成27年度生活排水処理形態別人口及び生活排水処理率に変更
39	24	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(3)①	平成22年度末現在においては、約5,400人の市民が公共下水道を利用可能な状況で、処理人口は4,074人となっています。	平成27年度末現在においては、4,836人の市民が公共下水道を利用可能な状況で、処理人口は4,776人となっています。
40	24	表	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(3)①	上天草市合津終末処理場の施設概要 平成22年度実績	上天草市合津終末処理場の施設概要の敷地面積、流入量、汚泥発生量を平成27年度実績に変更
41	24	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(3)②	平成22年度末現在の処理人口は526人となっています。	平成27年度末現在の処理人口は467人となっています。
42	25	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(3)③	平成16年度においては143基で、その後減少の傾向にあり、平成22年度においては88基の設置となっています。	平成16年度の143基から減少の傾向にあり、平成27年度においては75基となっています。
43	25	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(3)③	合併処理浄化槽 設置補助数の推移(表・グラフ)平成16～22年度	合併処理浄化槽 設置補助数の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
44	26	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(4)①	し尿及び浄化槽汚泥の処理量の推移(表・グラフ)平成16～22年度	し尿及び浄化槽汚泥の処理量の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
45	28	文章	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(5)	平成22年度の主な内訳は、公共下水道関連で約3億2,850万円、上天草衛生センター負担金で1億4,100万円、合併処理浄化槽関連で3,300万円となっています。	平成27年度の主な内訳は、公共下水道関連で約3億7,900万円、上天草衛生センター負担金で1億4,000万円、合併処理浄化槽関連で2,600万円となっています。
46	28	表 グラフ	第2章 一般廃棄物の現状と課題	第2節 1(5)	生活排水処理関連事業費の推移(表・グラフ)平成16～22年度	生活排水処理関連事業費の推移(表・グラフ)平成23～27年度の追加
47	30	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 1	平成22年度と比較して平成32年度は約11.6%増加する見込みです。	平成22年度と比較して平成32年度は約21.7%増加する見込みです。

	新p	項目	目次	枝番	改訂前	改訂後・改定内容
48	30	表	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 1	ごみ排出量の将来予測(表)平成22年度まで実績	ごみ排出量の将来予測(表)平成27年度まで実績に変更
49	30	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 1		※H23～H27の増減率の平均から家庭・事業ごみの排出量を推計した。を追加
50	30	グラフ	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 1	ごみ排出量の将来予測(グラフ)平成22年度まで実績	ごみ排出量の将来予測(グラフ)平成27年度まで実績に変更
51	31	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 2	平成22年度と比較して平成32年度は、資源化量は約29.3%減少し、リサイクル率は11.8%から9.7%に低下する見込みとなっています。	平成22年度と比較して平成32年度は、資源化量は約25.4%減少し、リサイクル率は11.8%から8.9%に低下する見込みとなっています。
52	31	表	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 2	ごみ処理量の将来予測(表)平成22年度まで実績	ごみ処理量の将来予測(表)平成27年度まで実績に変更
53	32	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 3	平成32年度の処理経費は330,030千円になる見込みです。	平成32年度の処理経費は464,729千円になる見込みです。
54	32	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第1節 3	ごみ処理費用の将来予測(表・グラフ)平成22年度まで	ごみ処理費用の将来予測(表・グラフ)平成27年度まで実績に変更
55	33	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第2節 1	予測の結果、生活排水処理計画人口は、平成27年度で28,288人、平成32年度で25,003人になる見込みで、処理形態別にみると、し尿収集については大幅に減少し、公共下水道及び合併処理浄化槽に転換されると予測されます。	予測の結果、生活排水処理計画人口は、平成32年度で25,173人になる見込みで、処理形態別にみると、し尿収集については大幅に減少し、公共下水道及び合併処理浄化槽に転換されると予測されます。
56	33	表 グラフ	第3章 一般廃棄物の将来推計	第2節 1	生活排水処理形態別人口の将来予測(表・グラフ)	生活排水処理形態別人口の将来予測(表・グラフ)平成27年度まで実績に変更
57	34	文章	第3章 一般廃棄物の将来推計	第2節 2	予測の結果、平成27年度においては、生し尿が6,051.7kl、浄化槽汚泥が12,222.6kl、平成32年度においては、生し尿が3,873.9kl、浄化槽汚泥が12,428.8klと予測されます。	予測の結果、平成32年度においては、生し尿が3,829kl、浄化槽汚泥が12,457klと予測されます。
58	34	表 グラフ	第3章 一般廃棄物の将来推計	第2節 2	し尿及び浄化槽汚泥排出量の将来予測(表・グラフ)	し尿及び浄化槽汚泥排出量の将来予測(表・グラフ)平成27年度まで実績に変更
59	36	表	第4章 基本計画	第1節 3(1)	平成27年度予測値 780	平成27年度実績値 791
60	36	表	第4章 基本計画	第1節 3(2)	平成27年度予測値 10.8	平成27年度実績値 10.3
61	37	文章	第4章 基本計画	第1節 4(1)	・集団回収の推進	・集団回収の推進の削除 ・資源物の排出機会の提供の追加 ・学校給食残さ物の堆肥化推進の追加

	新p	項目	目次	枝番	改訂前	改訂後・改定内容
62	39	文章	第4章 基本計画	第1節 4(2)	<p>(集団回収の推進) 現在、子供会や学校などで実施されている集団回収の状況を把握し、資源化及び自主的な実践活動の活性化を図るため、助成金などによる支援制度の検討を行います。</p>	<p>(資源物の排出機会の提供) 資源物の排出機会が毎月1回と限定されていることから、資源化率向上を図るために多様な排出機会を市民に提供し、市民が資源物を排出しやすい体制を構築します。 (学校給食残さ物の堆肥化推進) 学校給食で発生する残さ物の堆肥化に取り組み、可燃ごみの減量化と資源化率の向上を図ります。</p>
63	44	表	第4章 基本計画	第2節 3	平成27年度予測値 48.7	平成27年度実績値 48.3
64	49	表	参考資料	4 ごみ処理フロー	平成22年度ごみ処理フロー図	平成27年度ごみ処理フロー図
65	50	文章	参考資料	5 計画策定に係る経緯		<p>以下を追加 平成28年12月 ○第18回上天草市環境審議会 ※一般廃棄物処理基本計画見直しに関する協議 平成29年1月 ○庁内調整 ※都市整備課等と見直しに関する協議 3月 第19回上天草市環境審議会 ※一般廃棄物処理基本計画見直しに関する最終協議</p>